

平成30年度病虫害発生予察予報第10号（1月）

平成31年1月10日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	平年並(中央、中西)、少(西) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、少(中西) 平年並(西)、少(中央、中西) 平年並(中西)、やや少(中央)、少(西) やや少(中央、西)、少(中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	少(県下全域) <u>多(中央)</u> 、平年並(東、西) 少(県下全域) 平年並(中央)、やや少(東)、少(西)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並(中央)、少(東、中西) 平年並(県下全域) <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東) 平年並(中西)、やや少(東、中央) 平年並(東)、少(中央、中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 平年並(中央) 少(中央)

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 1 月 3 日発表）

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 1 月 5 日から 2 月 4 日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 60% です。降水量は、平年並または多い確率ともに 40% です。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 60% です。2 週目は、高い確率 60% です。

3 ～ 4 週目は、高い確率 50% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	20	40	40	
		日照時間	30		40	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	30	60	
2 週目		10	30	60	
3 ～ 4 週目		20	30	50	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：1 月 5 日（土）～ 2 月 4 日（月）

1 週目：1 月 5 日（土）～ 1 月 11 日（金）

2 週目：1 月 12 日（土）～ 1 月 18 日（金）

3 ～ 4 週目：1 月 19 日（土）～ 2 月 1 日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：平年並（中央部、中西部）、少（西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部、中西部で平年並、西部は少なかった。発病程度は中央部で平年並、その他の地域は低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多（西部）、平年並（中央部）、少（中西）

根 拠

- (1)巡回調査では県全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部で平年並、中西部では平年よりも少なかった。発病程度は西部で平年並であったが、その他の地域は低かった。
- (2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（西部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県中西部、西部で発生が見られた。県西部では発生面積は平年並であったが、発生程度は高かった。中西部は発生面積、程度とも平年以下であった。
- (2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：平年並（中西部）、やや少（中央部）、少（西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で平年並、中央部でやや少なく、西部で少なかった。また、発病程度は中央部で平年よりも高かったが、その他の地域では平年以下であった。
- (2)厳寒期は本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（中央部、西部）、少（中西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部と西部で平年よりもやや少なく、中西部で少なかった。発生程度はいずれの地域も平年よりも低く、被害は見られなかった。
- (2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に、既発ほ場では、この時期に防除を徹底する。
- (2)本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1)巡回調査では県東部で発生が見られたが、発生面積、発生程度とも平年以下であった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部、西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年に比べ多く、東部と西部では平年並であった。発病程度は西部で平年よりもやや高め、東部、中央部は平年以下であった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1)巡回調査では県西部で発生を認めただけで、全般的に発生は少なかった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に、既発ほ場では、この時期に防除を徹底する。

(2)本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（東部）、少（西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発生程度とも平年以下であった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発病程度とも平年以下であった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。各地域とも発生面積は平年並で、発病程度は平年に比べ低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、少（東部）

根 拠

(1) 巡回調査では県中央部、中西部で発生が見られた。中西部では平年に比べ発生面積が多く、発病程度も高かったが、中央部の発生面積、発病程度とも平年並であった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で見られた。発生面積はいずれの地域も平年以下であったが、発生程度は中西部で平年よりも高く、東部、中央部は平年以下であった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に、既発ほ場では、この時期に防除を徹底する。
- (2) 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：平年並（東部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積、発生程度とも平年以下であった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ発生面積が多かった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べやや多めの発生であった。下葉中心の発生で、発病程度は平年よりも低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1)巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、平年に比べ発病程度は高かった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

(1)巡回調査では新たな発生は認められず、発病程度は平年よりも低かった。

(2)厳寒期は本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が緩慢になるため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

(1)巡回調査での発生は見られなかった。

(2)この時期、野外から施設内への侵入は無いため、現在、発生が見られていないほ場では新たな発生は無いと考えられる。

対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット)

①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報

②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報

③病虫害発生予察技術資料

④新しく問題となっている病虫害 etc.